

## II 地理的分野の場合

高 森 充

### 1. ね ら い

ここでは、中学校社会科の地理的分野の中で、大きい比重を占める日本の諸地域について、若干の指導事例を中心に検討を進める。

その場合、日本の地域問題の中で、重大な矛盾と歪みを現わしている二つの地域——九州地方と東北地方について、どう扱うかという指導例を含めて考察したい。

以下、それぞれの地域について、課題解決学習（K案）と提示学習（T案）の対比において、

- (イ) 指導案をどう立てたか
- (ロ) 教授学習過程の比較
- (ハ) テストによる学習効果の比較（知識，理解，思考態度について）

### 3. 指 導 案

#### ① 九州地方 T案（8時間）

過 程	学 習 内 容	時 間	指 導 の 留 意 点
導 入	1 地理的位置	1	○位置と外来文化伝来との関係
	2 自然		
展 開	(1) 山地と火山帯	1	○北・中・南九州の地形気候の特色
	(2) 川と平野		
	(3) 複雑な海岸線		
	(4) 温暖な気候		
	(5) 台風の上陸地		
展 開	3 北九州	3	○台風による災害
	(1) 北九州工業地帯		
	(2) 日本最大の炭田地帯		
	(3) 炭田地帯の問題		
	(4) 筑紫平野の農業		
展 開	(5) 北九州の漁業	2	○漁業問題にふれる
	4 中・南九州		
	(1) 九州山地の資源と産業		
	(2) 中・南九州の工業と都市		
展 開	(3) 南九州の農業	2	○九州山地の資源の開発
	(4) 南西諸島と沖縄		
	(5) 南九州農業のおくれ		
	(6) 南九州農業のおくれ		
総括	○北九州と中・南九州の比較	1	

### 2. 検討の方法

- (イ) 対象 名大附属中学1年A組(46名)とB組(45名)
- (ロ) ① 4月27日～5月13日，単元「九州地方」A組K案，B組T案，(配当時間各8時間)
- ② 9月16日～24日，単元「東北地方」A組K案，B組T案，(配当時間各6時間)
- (ハ) ①について，5月7日，8日，11日に社会科各教官による授業観察と分析を行った。
- (ニ) 授業者，高森充

**K案（8時間）**

過程	学 習 内 容	時 間	指 導 の 留 意 点
課題と学習計画  展  開  まとめ 発 展	○九州の人々はどんな生活を営んでいるか 1 自然のすがた（生活の舞台） 2 西の玄関—外来文化の入口 3 九州の役割と現在の九州にはどんな問題があるか	2	○綴方，新聞記事等によって関心をほり起こす ○九州の歴史的役割と現在の課題を中心に学習問題を位置づける
	4 曲り角に立つ北九州工業地帯 (1) 炭田と工業地帯の発展 (2) 行きなやむ炭鉱地	3	○工業立地条件の変化 ○深刻な炭鉱不況問題をリアルにとらえる ○なぜ停滞しているか ○漁業問題をどう考えるか
	5 のびなやむ北九州の農林漁業		
	6 北九州につづく中九州	2	○単一工業都市の問題 ○その後進性の背景
	7 おくれた南九州の農業		
	8 南西諸島と復帰を熱望する沖縄		
	○九州の産業の移り変りと今後の九州	1	

② **東北地方 T案（6時間）**

過程	学 習 内 容	時 間	指 導 の 留 意 点
導入  展  開	1 地理的位置 2 自然 (1) 三つの山地と平野 (2) 変化のある気候	2	○三地形区の比較  ○東部と西部の気候の違い
	3 農業と漁業 (1) 東奥羽の農業 (2) 東奥羽の牧畜 (3) 三陸海岸の漁業 (4) 山地の林業 (5) 西奥羽の米 (6) りんごとさくらんぼ	2	○冷害—その原因・対策  ○出かせぎ漁業の特色  ○米の移出地としての役割り
	4 鉱工業 (1) めぐまれた地下資源 (2) 古い工業と新しい工業	1	○総合開発の問題にふれる
	5 交通と都市		
	総括 ○産業の特色をまとめる	1	

K案 (6時間)

過 程	学 習 内 容	時 間	指 導 の 留 意 点
課題と学習計画 展 開 まとめ 発 展	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東北地方にはどんな問題があるか、どうして開発が遅れたか</li> <li>1 中央からはなれていた東北                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自然のすがた</li> <li>(2) おくれた開発—原料の供給地</li> </ul> </li> <li>2 産業の中心—農林漁業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 米作りの発展                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>↓ 冷害との闘い (東奥羽)</li> <li>↓ 単作地帯 (西奥羽)</li> </ul> </li> <li>(2) 副業と出かせぎ                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>養蚕→果樹 馬→乳牛</li> <li>山仕事と林業</li> <li>三陸の出かせぎ漁業</li> <li>ふえる出かせぎ</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3 地元をうるおさない地下資源                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 資源に結びつかない伝統工業と新しい工業</li> </ul> </li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史的背景と関連させて、東北の後進性を考える</li> </ul>
		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○米作中心の農業</li> <li>○冷害の実態とその克服への努力</li> </ul>
		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○副業・出かせぎの必然性</li> </ul>
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふえる出かせぎの問題点 (具体的資料を中心に一事実に即した思考を要求)</li> </ul>

1 授業時間の指導案の例

T案 (第7時) 南九州の農業

目 標	指 導 過 程	重 要 語 句	指 導 の 留 意 点	資 料
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 南九州の農業の特色を理解させる</li> <li>(2) 南九州の漁業を理解させる</li> <li>(3) 南九州の産業のおもなものをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南九州について知っていることをあげさせる</li> <li>1. 南九州の農業の特色を説明する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(イ) シラス台地の農牧業</li> <li>(ロ) 温暖多雨と促成栽培</li> </ul> </li> <li>2. おくれた開発                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○台風と火山灰地 (シラス)</li> </ul> </li> <li>3. 主な農作物と低い生産性</li> <li>4. 鹿児島島の遠洋漁業と近海漁業</li> <li>○南九州の産業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラス台地</li> <li>促成栽培</li> <li>亜熱帯性気候</li> <li>台風のコース</li> <li>遠洋漁業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○さつまいも、のいわれ→ ＜問答法を中心として…＞</li> <li>○何故開発がおくれたかを考えさせる</li> <li>○ノートにまとめさせる</li> </ul>	〔K案〕にほとんど同じ

K案（第7時）おくれた南九州の農業

目 標			
	指 導 過 程	指導方法・留意点	資 料
(1) 南九州の農業の現状・背景・後進性の原因・問題点を考えさせる (2) 黒潮漁業—特に零細漁業について理解させる (3) 南九州の後進性解決の方向を考えさせる	〇南九州の産業の中心は何か (第1次課題を中心として)  1. おくれた畑作農業 〇南九州に煙突は少ない 〇美しい自然……苦しい生活 <実態> (イ) せまい耕地, やせた畑 (ロ) 多い県外出かせぎ  2. なぜ貧しいか (第2次課題) 〇台風銀座 ) 〇シラス台地 ) 〇歴史的背景 ) 〇避遠性 )  3. さつまいもでは食えない 〇養とん 〇早期(促成)野菜→阪神地方へ 〇たばこ……専売制と苦しい労働 〇零細漁業と大企業の遠洋漁業  ◎どうしたらよいか いくつかの方向 例えば、農地保全事業、	〇九州の旅、北から南へ、の具 体例  〇おくれた産業の問題点をほり おこす ↓ なぜ貧しいか、なぜ開発がお くれたか (問答, 討議)  (貧しさにまけない人々)  副業の心然性と問題点←→市場 に遠い 〇価格変動の激しいブタ肉 〇零細農家の現金収入 〇多い零細沖合漁業 〇他県からの出漁	〇掛地図 〇掛 図 〇写真 (文化地理大 系I) 〇県民1人当り所得 比較

4. 生徒の動き

教師・生徒の相互作用を見る上で①のK案における授業観察の記録(記録者, 都築(5月8日)の一部を示す。

「T.(QB) 北九州の漁業にはどんな問題があるだろうか? A.P. リ・ライン T. どんなこと?

P<sub>4-7</sub> 魚獲の制限, 漁船がつかまる。……(T.事例の説明)

T.(QA) 北九州の漁業は規模は大きい, 小さいか, P<sub>4-3</sub> 小さい。……

T. どうしたらよいだらう? P<sub>1-5</sub> 養殖をやる。

T. 九州で養殖しているのは? A.P. 真珠, T. それ以外の方法は? P<sub>1-7</sub> 小さいのが共同して,

→P<sub>4-6</sub> 他の所へ遠洋漁業に出ればよい, T. それも一つの方法。……T.他に? P<sub>6-6</sub> 日韓会談で漁業の協定をする。T. 君たちが韓国の代表だっ

たら? P<sub>7-6</sub> リ・ラインをまもる。……」

両クラスの普通の教室のムードにはそう差異はない。しかし, K案を実施した場合, 生徒の反応, 教室のムードはかなりはっきりした違いが現われた。K案においては, 意識的にも指導の重点を生徒の動きを活潑にし, 生きるために苦闘をする人々の生活に, 少しでも実感的に近づけようとした。だから, 学習のタイプは基本的には教師が中心になっているが, 生徒の動きは生き生きとし, T—P<sub>1</sub>—T—P<sub>2</sub>という流れが比較的連続的にとられた。しかもこの際のPは普段余り挙手発言をしない生徒も発言し, T—A.P という形もかなり多い。

T案においては, 普段と余り変りなく, 発言は割り合い積極的であるが, いつも発言する生徒に集中する傾向がある。

表1 発言回数の比較表(一例)

(中1 A) 成績段階	① K案 (5月 8日)	② T案 (9月 18日)	(中1 B) 成績段階	① T案 (5月 8日)	② K案 (6月 18日)
上10 (3)	17(6)	13(4)	上10(4)	11(4)	18(5)
中27(13)	10(3)	8(2)	中26(12)	6(2)	10(3)
下9 (4)	2		下9 (4)		
計46(20)	29(9)	21(6)	計45(20)	17(6)	28(8)

( ) 女子で内数

5. テストと結果

① 九州地方

テストNo. 1 (各問10点満点, 1, 2は知識—自然名称と産業の特色を見て答える。3, 4は理解—歴史的的理解と工業地帯の現状を問う。……問題は省略)

表2 テストNo. 1の結果

クラス	問	知識		理解	
		1	2	3	4
A 組 (K 案) 46名		7.3	9.7	7.2	8.4
B 組 (T 案) 45名		7.6	9.3	7.3	7.9

表2に認められるように、知識・理解については、ほとんど有意差がない。(検定の結果では、いずれも危険率5%水準で有意差なし)

テストNo. 2は1, 炭鉱地帯及び2, 南九州農家の生活についての Problem Situation Tests を設定した。次にその問題文をあげたように、(問1)は客観的な思考を、(問2, 3)はそれに基づく課題解決的思考を要求し、各自の意見を自由に書かせた。

テストNo. 2 (問題例)

○次の文をよく読んで間に答えなさい。

1. 筑豊の田川市にA君の家がある。この町では10年前は大変景気もよく、他地方から炭鉱に働きにくる人も多かった。しかし、A君のお父さんは昨年<sup>※1</sup>の炭坑落ばん事故のため死んでしまっ、A君の家では今お母さんが日やといの仕事に出て生活をたてている。中学3年のA君は学校の成績がよいので高校へ進みたいと思っている。3年前、高校を出て大阪の会社につとめている兄さんもそれをすすめている。しかし、疲れて帰ってくるお母さんの顔をみると「高校へ行きたい」とは言いだしかねている。<sup>※3</sup>

※(問1) 最近では田川市の人口が減少しはじめている。これはなぜだと思いますか。

(問2) 田川市が今後、発展するためにはどうすればよいと思いますか。

(問3) あなたがA君ならば、どうしたらよいと思いますか。できるだけ詳しく、あなたの考えを自由に書きなさい。

2. 鹿児島県の農家のB君の家では、耕地が7反(約70アール)あるが、そのほとんどは畑で、台地の上にあり、やせた土地で、大雨がふるとくずれやすい。畑作だけでは生活できないので、B君のお父さんは副業にブタを飼っているが、昨年<sup>※1</sup>もブタ肉が高くなると思ってたくさん売ったが、売るときには肉の値段が下がってあまり利益にならなかった。お父さんの話ではブタ肉の生産者価格(商人に農家から売るときの価格)は年によって1頭3万円から1万円にも上下して大変不安定だと言っている。1人息子のB君は、中学を卒業したら農業をつぎたいと思っているが、B君の村のひどいシラス崩れやきつい農業の仕事を見ていると決心がぶってしまう。<sup>※3</sup>

※(問1) この土地はなぜやせていて、崩れやすいのでしょうか。

(問2) この土地はどうしたらよくなると思いますか。

(問3) あなたがB君ならば、どうしますか。できるだけ詳しく、自由に考えを書きなさい。

表3 テストNo. 2の結果(実数)

組 問 類型	A 組 (K案)						B 組 (T案)					
	I			II			I			II		
	1	2	③	1	2	③	1	2	③	1	2	③
R	16	9	18	12	51	2	11	2	12	13	5	7
P	23	25	24	30	34	25	24	15	20	23	21	17
U	5	10	2	4	5	8	10	22	12	9	12	21
N	2	2	2	0	2	1	0	6	1	0	7	0

(註) 類型

R (◎) 全体として、リアルに正しくとらえる

P (○) やや分部的で、解決思考が不十分

U (△) 不完全で、ごく一面的

N (×) 無記

ここではT案にくらべて、K案の場合、有意差をもって、K案がR及びP類型が多く、事実即して思考を発展させる上で、ややすぐれているといえる。

② 東北地方

九州地方とはほぼ同じ形式(1は知識—地図を見て自然名称を問う。2は理解—地図を見て冷害問題の考察。3都市の産業の特色) 4, 5は東北の農村問題の Problem situation tests……問題は省略

表4

クラス	問	理 解		
		1	2	3
A (T 案) 46名		15.74	4.52	9.63
B (K 案) 43名		15.79	5.88	6.61

※ 1は20点満点, 2, 3は10点

ここでは、九州地方とは逆にA組をT案、B組をK案として実施したものであるが、ここでも、知識については有意差がなく、理解については3の都市の産業の特色は有意差はないが、2の地図を見て冷害問題の考察ではB組のK案がややすぐれている。

次に、表5に示したのは、東北の農村問題についての **Problem situation tests** であるが、自由記述を4つの類型にわけて集計した結果である。(ここでもK案の方が有意差をもってR類型が多く、U及びNが少ない。

表5

類 型	問	A組 (T案)		B組 (K案)	
		4	5	4	5
R		7	5	13	11
P		29	19	27	23
U		10	21	3	9
N			1		

※ R(◎) リアルに正しくとらえる  
 P(O) 部分的  
 U(△) 不完全  
 N(X) 無記

### お わ り に

以上の結果は地理的分野の二、三の地域について試みたものであるが、過去数年の比較研究とほぼ同じ傾向を示している。即ち、要素的知識については両案に有意差はないが、発展的思考についてはK案がやや優位である。このことから、現在の支配的な提示学習は改善すべき問題を多く残しているといえよう。